

これから日本での就職をめざす留学生の皆さんへ
先輩からのメッセージ

群馬大学留学生 就職報告会2008

アジア人財資金構想 高度専門留學生育成事業
平成21年3月

委託者：経済産業省関東経済産業局

委託先：国立大学法人 群馬大学

—これから日本での就職をめざす留学生の皆さんへ先輩からのメッセージ—

平成20年度 群馬大学留学生就職報告会

アジア人財資金構想高度専門留学生育成事業（経済産業省・文部科学省）

1. 就職活動状況が激変する中での報告会

平成19年度に初めて実施した、「群馬大学留学生就職報告会」を、今年度も実施することができました。この報告会は平成19年度から実施されているアジア人財資金構想プログラムにおける専門教育の一環として行われているものですが、今年度は広く就職を希望する留学生、さらに、留学生を支援する職員、教員の参加もあり、充実した会となりました。



特に今年度下半期の世界的な経済の落ち込みから、来年度以降の就職が厳しくなるとの見方があり、留学生は、先行きに大きな不安を抱えている様子でした。そのため、報告会、グループに分かれての相談会では、後輩留学生は、必死の様子で、かなり細かい部分に関する質問が行われ、また、先輩留学生からの心強いアドバイスが飛び交いました。

2. 何が行われたか？

実施日時：11月11日（17：30～19：00）

場 所：群馬大学工学部8号館留学生センター特別教室

参 加 者：群馬大学留学生・事務職員・教員など約30名

プログラム

1. 開会の挨拶
 2. 就職活動報告（先輩留学生4名）
 3. パネルディスカッション —日本での就職活動の秘訣—
 4. グループディスカッション —ここが聞きたい・疑問質問—
- その他：情報提供

（今後行われる就職活動セミナー・就職相談窓口・インターン紹介国際教育・研究センター就職支援メーリングリスト参加の勧め等）

開会の挨拶の後、先輩留学生による「就職活動報告（4名）」が行われました。その後、参加者からの質問票を回収し、まとめたうえで、先輩留学生4名によるパネルディスカッションを行いました。質問内容のうち、重要なものについてそれぞれディスカッション



しました。最後の時間には会場を2つのグループに分け、先輩留学生を交えたフリーグループディスカッションを行いました。4名の先輩の就職報告は、それぞれ異なったアプローチからの報告で、一言で就職活動といっても、目指す方向性によって、その活動もかなり変わってくるのがうかがえました。4人の就職先もそれぞれであれば、就職活動のやり方もそれぞれで、各留学生が自分と向き合いながら、独自に努力して就職を勝ち取ったのだと感じさせてくれました。また、パネルディスカッションや、グループディスカッションでは、後輩からの具体的な質問に、先輩留学生が自分の経験を交えて丁寧に回答しており、その自信にあふれる姿に後輩は大きく励まされたのではないかと思います。

なお、今回の報告会では、夕方遅くからの開催にもかかわらず、学生支援担当の事務員、留学生と関係の深い教員の方等、支援者としての立場の方にも参加をいただくことができました。ここに深く感謝いたしますとともに、来年度以降、より多くのサポートの輪がひろがることを期待しています。

3. 先輩のスピーチから何を学ぶか？

今年度は、就職活動時期を迎えている修士1年生、学部3年生以外の学生の参加も推奨しました。できれば、大学院生であれば、研究生のときから、学部生であれば1年生のときから、卒業後の進路を考えてもらいたいと考えたためです。そこで、先輩留学生には、就職活動の具体的なノウハウのみでなく、在学期間にやったことと就職の関連性や、なぜ、その会社だったのか、なぜその職種だったのか、なぜ、日本だったのかといったキャリア決定の部分にも踏み込んだお話をさせていただきました。



①ウイ・ウェイズさん

【国籍：マレーシア 学年：工学部4年 就職先：総合商社】

ウェイズさんは、工学部としては異例の総合商社への就職を成功させました。しかし、就職活動を始めたとき、周りの友人たちには同じ目標をもつ人がおらず、孤軍奮闘だったと振り返っています。

ウェイズさんは、その報告の中で、まず、日本における就職活動がどのような特徴をもっているのかについて話されました。特に日本では一斉に就職活動が始まる「時期」があるため、この時期を見逃さないことが重要であると語られました。

ウェイズさんの就職活動は、自分自身の目標や夢と、自分自身の現在置かれた現実とのギャップを冷静に見つめることから始まりました。このことは、聞いているぶんには簡単なことですが、適切で深い自己分析が必要であり、けしてやさしいことではなかったと思います。さらに、早い時期から多数の企業のインターンに参加し、100社以上の企業研究を独自に重ね、ターゲットとなる企業を絞り込むことに成功しています。しかし、実際の就職活動はけして順調なことばかりだったわけではありません。先輩へのアドバイスの中で、ウェイズさんは、長い長い「失敗のループ」をどう乗り越えるかで、「成功のループ」にたどり着けるかどうかが決まると語ってくれました。失敗したときに落ち込まない方法、その失敗を客観的に分析することの大切さ、そして根本的な問題として日本語力の強化や、就職試験への備えをしっかりとすることなどを地道に続けていけば、おのずと結果がついてくる、そしてこの就職活動を通して必ず自分自身が飛躍的に成長すると後輩に熱いメッセージを送りました。

ウェイズさんの就職活動は、自律性が強く、大変挑戦的であり、なおかつ戦略的なものでした。また、一流の商社への内定という結果は、在学中からの積極的な活動とご本人の意志、そして何より日々の努力の結果であるということを感じました。発表のスタイルにも、大きな困難を乗り越え、成功を手にした自信がみなぎっていることを感じました。すばらしい発表ありがとうございました。

1. 就職活動と準備方法

基本的にどう始めればいいのか？

日本の就職活動(就活)とは？

答: 仕事を探す

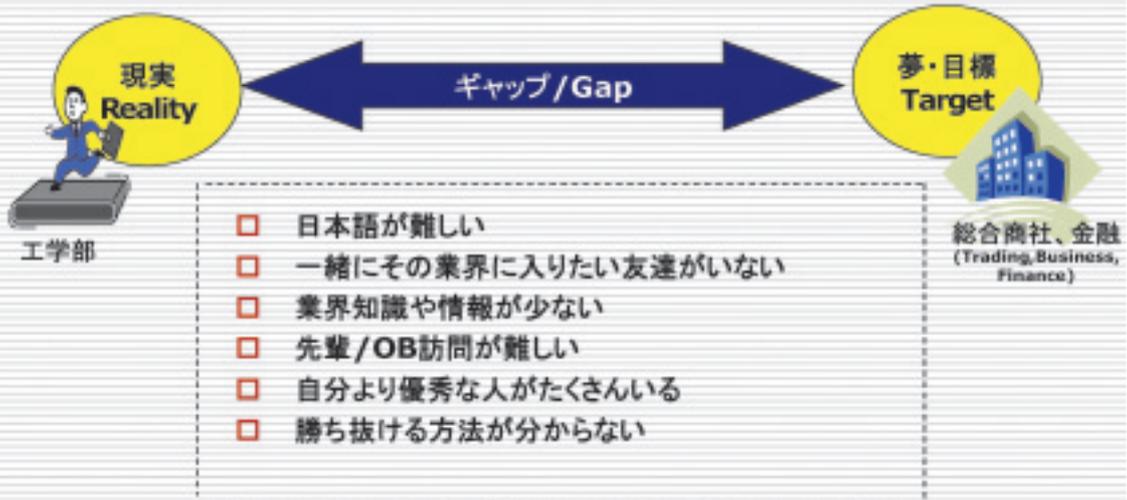
海外と違う(時期あり)

* 就活は3ヶ月の努力で、5年、10年、30年先の
人生が決まるかもしれない。

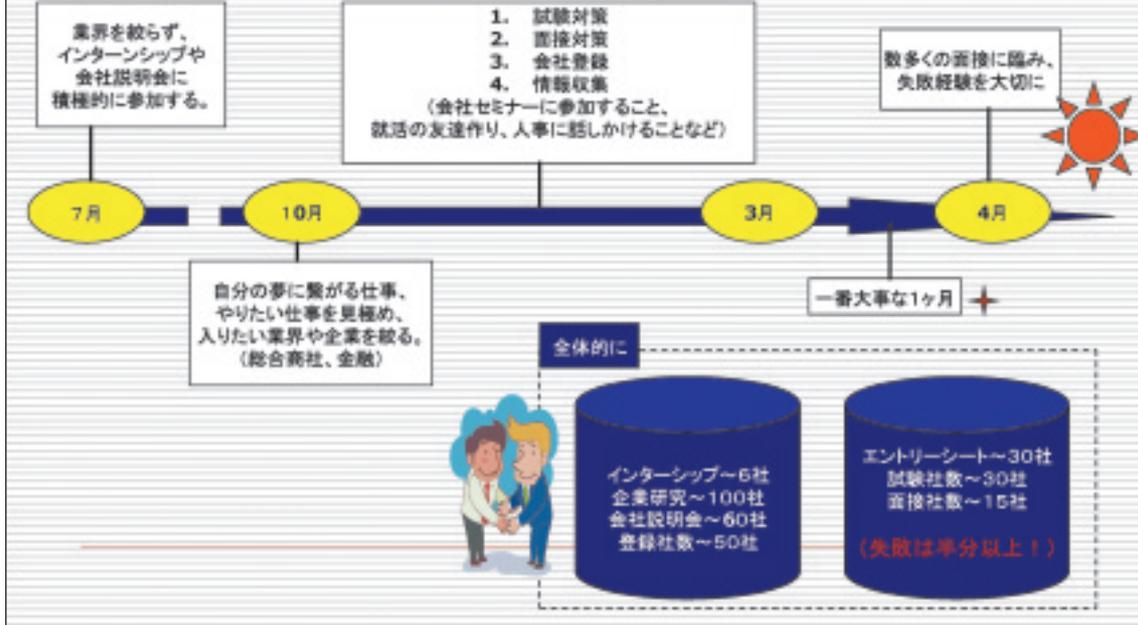
- 自己分析/業界研究
- 就職サイト/会社ウェブ登録
- 試験対策(SPI, GAB など)
- エントリーシート/レジメ
- 会社説明会
- 筆記試験
- 面接(個人、集団)
- 内定(Offer)



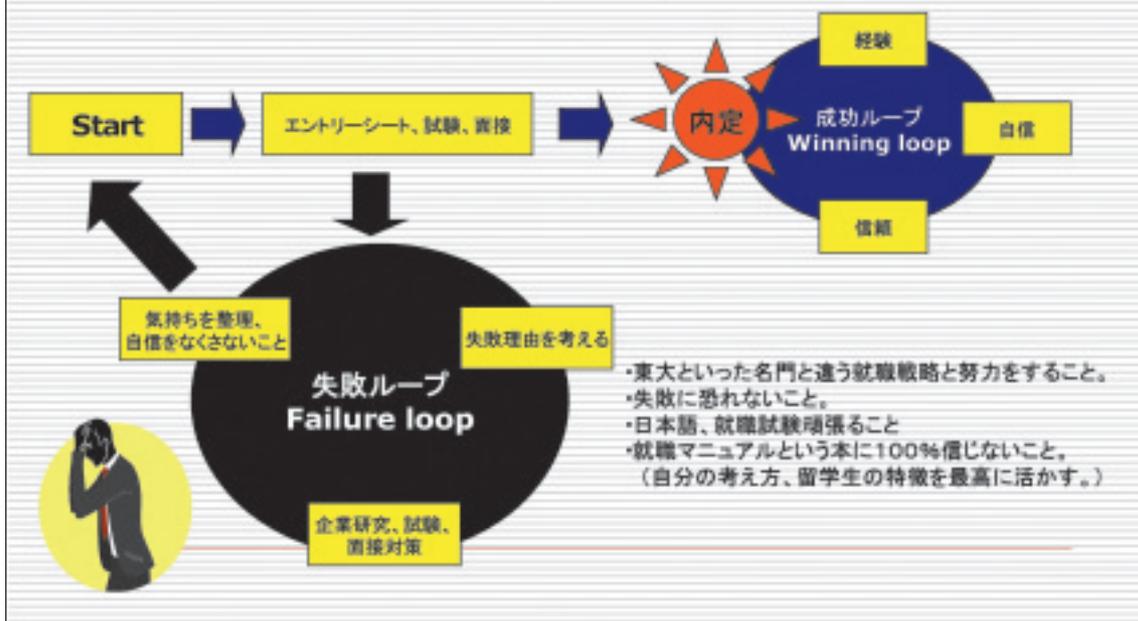
2. 現実と目標



3. 私の就職活動



4. アドバイス



ウィ・ウェイズさん発表原稿「日本の就職活動のやりがいについて～Job Hunting & challenges～」から一部抜粋



②李文皓さん

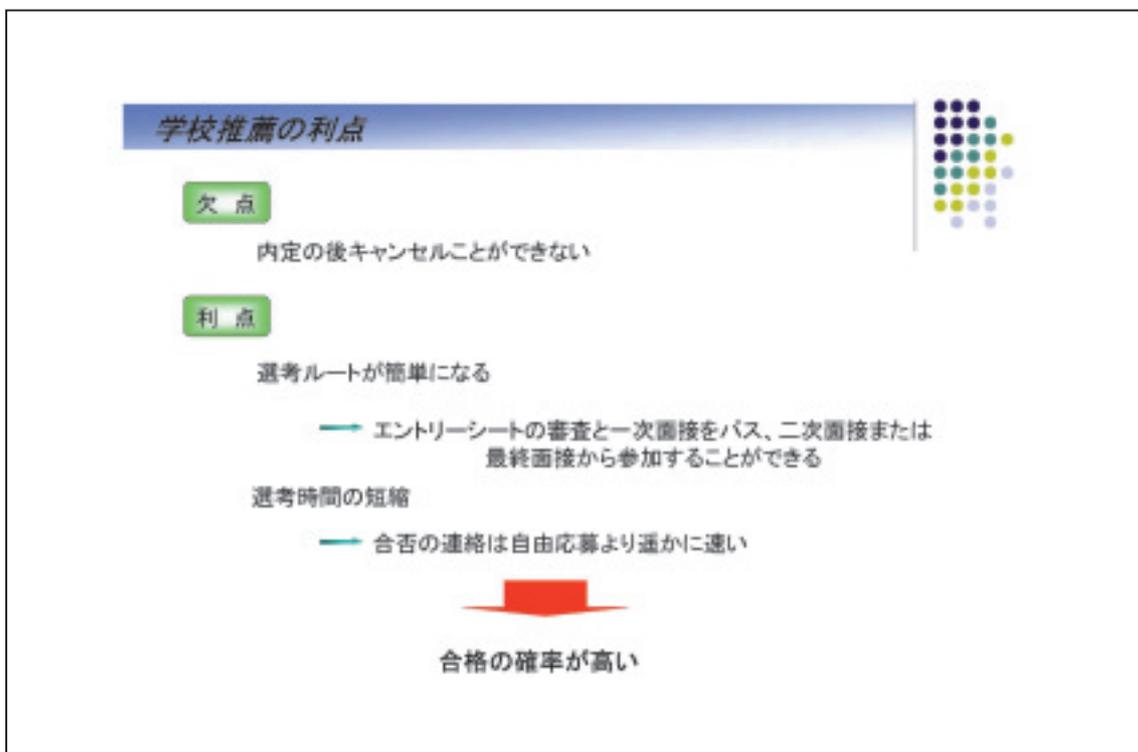
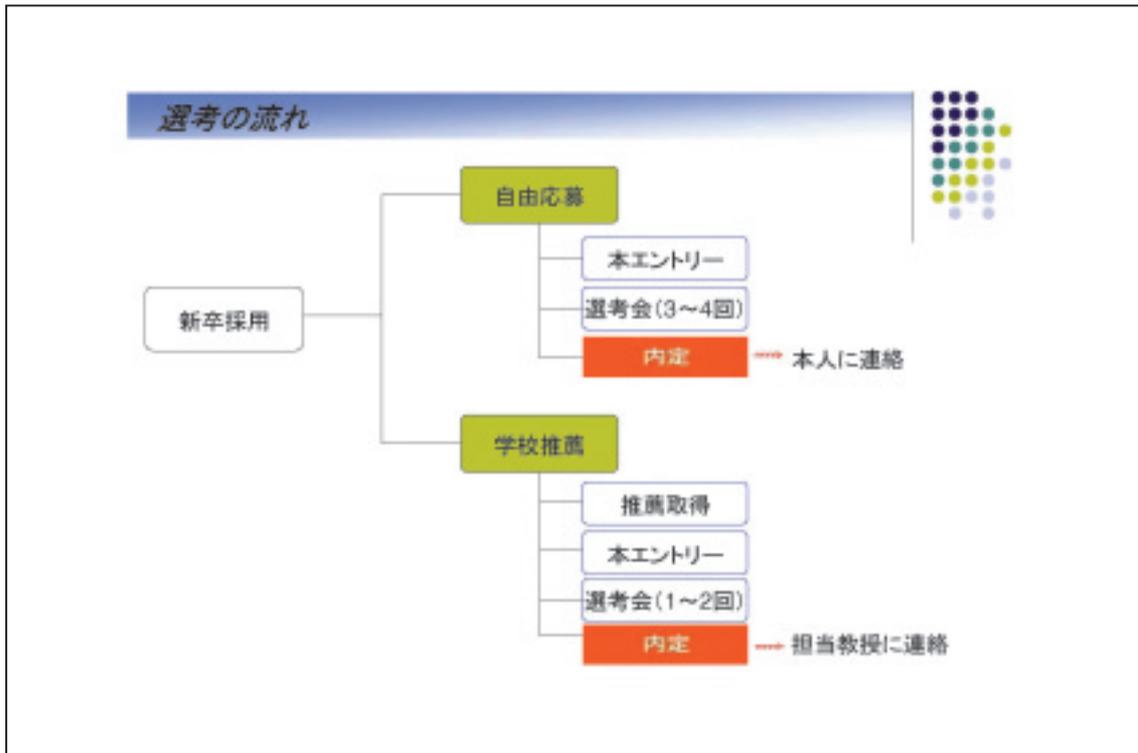
(アジア人財資金構想プログラム 1期生)

【国籍：中国 学年：工学研究科修士2年 就職先：大手メーカー】

李さんは、希望していた大手メーカーへの就職を学内推薦を使って、確実に手にしました。その李さんの発表では、工学部という特性を生かした大変具体的な就職活動のお話を聞くことが出来ました。多くの後輩が、自分自身の就職活動のモデルとして参考に出来ると、興味深く聞き入っていました。

工学部では、就職活動の際、学内推薦を獲得することができると、就職活動をかなり有利に進めることが出来ます。しかし、留学生の中には、その制度を十分理解していなかったり、うまく利用できていないこともあります。李さんの報告では、まず、学内推薦を使って就職活動を行うことにどういったメリット、デメリットがあるのかについて語られました。学内推薦を受けると、内定後の取り消しはきかないが、選考ルートが短縮される上、合否の連絡も迅速であり、就職活動を効率的に行うことができるため、意義があると話されました。また、今後、学内推薦をとりたいと考える後輩のために、学内推薦に関する資料がどこで得られるのか、説明会が行われる時期、また、その共通ルールについて説明されました。さらに、選考前、あるいは1次選考後に行われる「マッチング面接」は希望職種とのすり合わせという意味だけでなく、技術面接の代わりと位置づけられていることが話され、実は、この部分が学内推薦において非常に重要なポイントであることも教えていただきました。

大学院生の就職活動は常に研究活動との板ばさみで、長引けば長引くほど本来の研究活動との間で学生が苦しむ場合があります。しかし、学内推薦では、使い方によって非常に効率よく就職活動を行うことができるということがわかりました。李さんは、その方略を非常に直接的に、また簡潔に、かつ必要な情報を網羅して後輩へ伝えてくださいました。すばらしい発表ありがとうございました。



マッチング面談を旨く利用

マッチング面談とは
職種テーマと皆様の希望職種を刷り合わせるために行う面談です
(面接ではありません)

面談行う時期
選考前または一次面接の後
(2008年度行った会社: 日立製作所、東芝、富士通など)

実は → とても大事である

マッチングなしの場合

- 第一次面接
- 技術面接
- 最終面接

マッチングありの場合

- マッチング面談
- 人事面接
- 最終面接

学校推薦の獲得

学科よりそれぞれ

就職資料室
例年の推薦資料または今年の推薦情報

時期
三月の中旬または四月の初めから

具体的のやり方について
二月または三月頃、学科の就職説明会で詳しく紹介される

共通のルール

- 一回の推薦につき、1社しか推薦できない
- 推薦の場合、内定後キャンセルできない
- 推薦は院生優先である



③ 龔華さん

(アジア人財資金構想プログラム 1期生)

【国籍：中国 学年：工学研究科修士2年 就職先：地元メーカー】

龔華さんは、2年前、日本へ来日したばかりの研究生でした。そのため、就職活動を始めたのは、日本へ来てから1年にも満たないうちだったのです。さらに、来日したとき、日本語はほとんど話せない状態でした。そのため、その就職活動は大変で、修士1年の夏から修士2年の夏まで、ほぼ1年近くを就職活動に奔走することになりました。しかし、ご本人の努力により最終的に、地元企業への就職の内定を受けました。

そんな龔華さんからは、就職活動の困難さについて、またそれをどうやって乗り越えるかについて語っていただきました。

特に、ご本人のもっとも苦労なされた日本語力について、就職活動の始まる前までに、どんな苦労をしても伸ばしておく必要があると強く訴えられました。

また、就職の際の企業研究と、職種の絞込みに時間をかけることの重要性についても話されました。ご自身は、漠然としたシステムエンジニアという枠で考えていたが、それだけではヒットする企業が多すぎて、次々試験を受けて、失敗することを繰り返したといいます。もっと早い時期に、自分が何をしたいのか、そのことを考えることが大切で、それは、就職活動の始まるもっと前から毎日考えておく必要があると後輩にアドバイスしてくれました。

また、研究室の仲間、先輩、指導教員、就職担当教員など多くの方が助けてくださったこと、これらの人々のサポートがなければ、挫折していたかもしれない、就職活動の際は、周りの人々のアドバイスを十分に聞き、わからないことは早めに何でも聞くことが重要だと話されました。周囲のコミュニティとよい関係を保つことは、就職活動に大きな力となることがうかがわれました。

龔華さんの発表では、ご自身の経験からのお話で、後輩の留学生にとっても、日本における就職活動が、簡単なものではないという厳しい現実、また、就職活動は一人でやるものではなく、多くの人に支えられているのだということを伝えていただいたと思います。すばらしい発表ありがとうございました。



④サントス・アリオ・ウィボワ

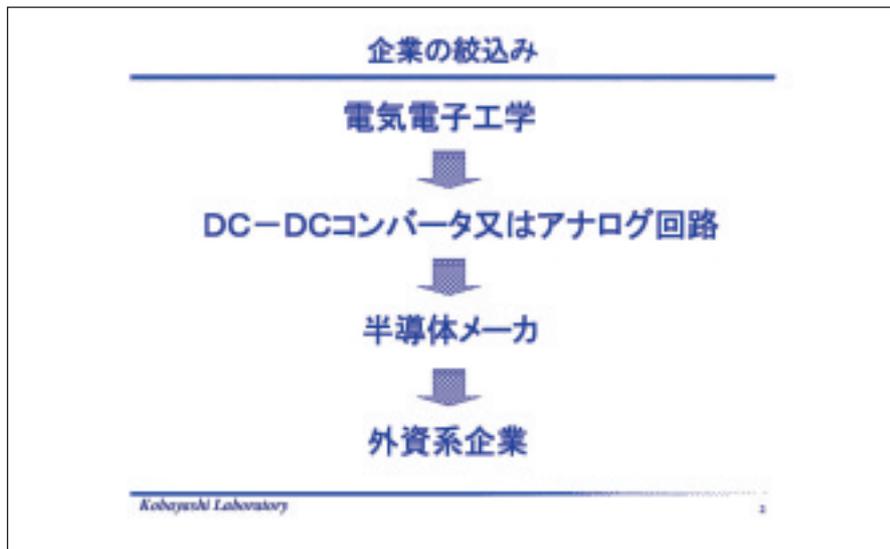
【国籍：インドネシア 学年：工学研究科修士2年】
【就職先：外資系メーカー】

最後のスピーカーであるサントスさんは、外資系の企業に就職先を絞って就職活動を行い、希望通りの就職先の内定をとりました。

サントスさんの報告からは、自己分析と、企業分析の重要さが伝わってきました。まず、サントスさんが就職する企業を絞り込んでいった経緯について語られました。

ご自分の大学院での専門分野を忠実に生かしたい、そのためには、どの分野がいいかということが考え込まれていました。さらに、日本企業ではなく、外資系企業というオリジナルな選択に至ったわけについて、語ってくれました。サントスさんは、在学中、日本企業でインターンを行った際に、その社風、企業のあり方、社員どうしの関係性などに違和感を感じたといいます。自分はきっと日本の企業の中ではあまりなじめないと感じ、より裁量性が高く自由な社風のある外資系をめざそうとしたのはそれがきっかけだということでした。また、外資系企業では、日本語力だけでなく、英語力も考慮してくれるため、英語の得意なサントスさんにとってよりメリットが大きいこと、また、海外支店の多さも、自分の能力を生かし、さらにスキルアップすることも可能だと考えたということです。また、サントスさんは、内定先の企業から期待されているFAE(Field Application Engineer)技術営業という自分の役割についても話してくださいました。物を作ることとそれを売ることをあわせて行う技術営業には、製品の内容と特性を熟知し、作った人間だからこそ売り込める強みがあり、また作る時にも消費者の目を常に考えたものづくりができるといいます。さらにサントスさんは、自分がFAEという職種を選んだのは、新しいものを作り出すというよりも今あるものをいかしていくというコンセプトに共感したためだと語ってくれました。

サントスさんの企業選びは、自分を知り、相手を知るというもつとも重要な部分を中心にして、ご自分がその会社で「何をする」のか、将来「何ができる」のかを考えた結果であることがわかりました。留学生の多くは、就職活動が始まると、焦って企業名にとらわれやすい傾向があると言われている中、堅実なキャリア選択の一例を見せていただいたと感じました。すばらしい発表、ありがとうございました。



- なぜ外資系？**
-
- 採用選考は職種別で行う ⇒ 職種別に採用の選考基準は異なっている
 - 会社の雰囲気：
 - ✓日本企業に比べて柔和
 - ✓外国人が多い
 - 海外でも活躍できる
 - 専門知識と言語能力のレベルアップ
-
- Kobayashi Laboratory 3

- FAE (Field Application Engineer)**
-
- FAE ⇒ 技術営業
 - 幅広く活躍できる ⇒ セールスと技術支援を同時に行う
 - 持っている知識を活かし、新しい知識を身につける
 - 新しいモノを作るという考えより、あるモノの特性を活かせるという考え方
-
- Kobayashi Laboratory 4

サントス・アリオ・ウィボオさん発表原稿「自分なりの就職活動」から一部抜粋

4. パネルディスカッションとグループディスカッション

後半に行ったパネルディスカッションでも、大変有意義なコメントがあったので、以下にまとめました。ぜひ参考にしてください。

会場からの質問に答えて

①面接で答えにくい質問がありましたか？ どう対処すればいいですか？

Qどのくらい日本にいるかと聞かれたら???

→1, 2年で帰りますは、まず言うてはいけないと思うし、皆さんもそんなに短期では考えていないと思う。具体的な数字をあげないほうがいいと思う。～ができるようになるまでがんばるつもりだとか。

Q日本語のよしあしについて指摘されたら???

→あまり指摘されることはないと思う。企業担当者は、日本語のチェックをしているのではなく、この人間が会社に役にたつかどうかを見ているので。ほめられたらありがとうございます。とっておき、まだ日本語が弱いといわれたら、素直に認めて上手になるよう努力する具体的な方法を言えはいい。また、他の言語が話せることでカバーするといってもいいのでは。

Q 日本のどんなところが好きか、嫌いかと聞かれたら？

→これはかなり面倒な質問。好きな部分はどうにでもいえる。しかし、嫌いな部分はただ、これがいやだあれがいやだと不満をいうことになってはまずい。日本人も自覚していると思うような社会全体の問題をとりあげて、さらに、こうすればいいのではないかという提案をつけられれば、印象は悪くならない。

②言葉の不十分さが心配。日本語は何級が必要なのか？

TOEICは役にたつ？ 外資系では？

- 日本語は当然できたほうがいい。あとになると時間がない。今のうちに伸ばして。
- 何級が必要なのかという問題ではないが、日本語能力検定試験なら1級が基本。2級ならむしろ書かないほうがいいぐらい。
- 日本語がうまいということだけでは意味がない。話す内容が魅力的かという問題だ。
- 外資系でも日本で働く限りは基本的な日本語力は重要なポイント。それに加えて英語力。TOEICなどの点数は書類や履歴書の段階では確かに重要、でも結局面接で実力はばれるので、とにかく仕事で使える英語力。
- 英語、日本語、中国語と3ヶ国語できると、日本人学生より強みができる。
- 日本語が十分できないとエントリーや、履歴書を書くときにもものすごく苦労する。

③将来計画について教えてください。

- 日本でしばらく働いたあと、その企業の海外支店へいくのが希望。自分の国ではなく、また新しい第3国。
- まだ、何も考えていない。入った会社での仕事の内容と、環境次第。でも、苦労して就職を決めたので、しばらく日本でじっくり働きたい。
- 配属されたセクションでのリーダー的な存在になることがとりあえずの目標。それにはどのくらいかかるのか、なれるのかわからないけど。
- いくつかの国をまたいだ仕事をしていくこと。入る会社の仕事はそういう仕事なので、日本、自分の国、また他の国といくつもの国や人を結んで仕事をしていきたい。その中からまた新しいものが生まれてくると思う。

最後の時間に30分ほどグループワークの時間を設け、学生は直接先輩に不安なこと、基本的なことによくわかっていないことをたずねたりしてもらった。



後輩：インターンってたくさんいったほうがいいですか。

先輩：いっぱいいいけばいいってわけじゃないけど、いくつかいくと比較はできるよ。中をみて、働いてみないと本当はどんな会社なのかよくわからないと思わない？ 募集欄にのってないようなさ、どのくらい忙しいのかとか、新人はどんな仕事するんだろ、とかどんな上司がいるのかとか、きれいな人がいるのかとかさ。笑

後輩：人事の人って怖いですか？

先輩：怖いと思わないで。説明会でもどんどん名刺交換しちゃうんだよ。どこでチャンスがつながるかわからないから。こちらが怖がらないでいけば、相手は意外と相手をしてくれる。留学生ってだけでも覚えてもらいやすいんだよ。

平成19年における留学生等の日本企業等への 就職状況について

1. 留学生等の入国・在留状況の概要について

「留学」の在留資格による平成19年における新規入国者数は、平成18年と比べ2,142人（8.0%）増の2万8,779人、「就学」の在留資格による平成19年における新規入国者数は、平成18年と比べ25人（0.1%）増の1万9,160人となっており、それぞれ平成16年にいったん減少したものの、平成17年以降は再び増加した。平成16年に減少した要因として、不法残留者の増加や犯罪の多発に対応するため、平成15年11月から、留学生及び就学生の勉学の意思・能力や経費支弁の能力の有無等許可要件に適合するか否かの審査を実施した結果、これらの許可要件に適合しないと判断された留学生等が相当数に上ったこと等が考えられる。「留学生の受入れ推進施策に関する政策評価書」（平成17年1月総務省）においては、留学生全体として学業成績等質が低下しており、留学目的である学位を取得できない者や不法残留者が増加している旨指摘されており、引き続き適正な受入れに努めていく必要があると考えられる。

平成19年の新規入国者数を地域別に見ると、「留学」、「就学」のいずれについてもアジアからの学生が大部分を占めている（留学生76.1%、就学生92.4%）。

2. 留学生等の日本企業等への就職状況の概要について

平成19年においては、大学、大学院、短期大学等に在籍していた外国人留学生（以下「留学生等」という。）が本邦の企業等への就職を目的として在留資格変更許可申請を行った件数は11,410人で、このうち10,262人が許可されており、前年の許可数で8,272人より1,990人（24.1%）の増加となっている。

平成19年における許可状況を主な国籍・地域別内訳で見ると

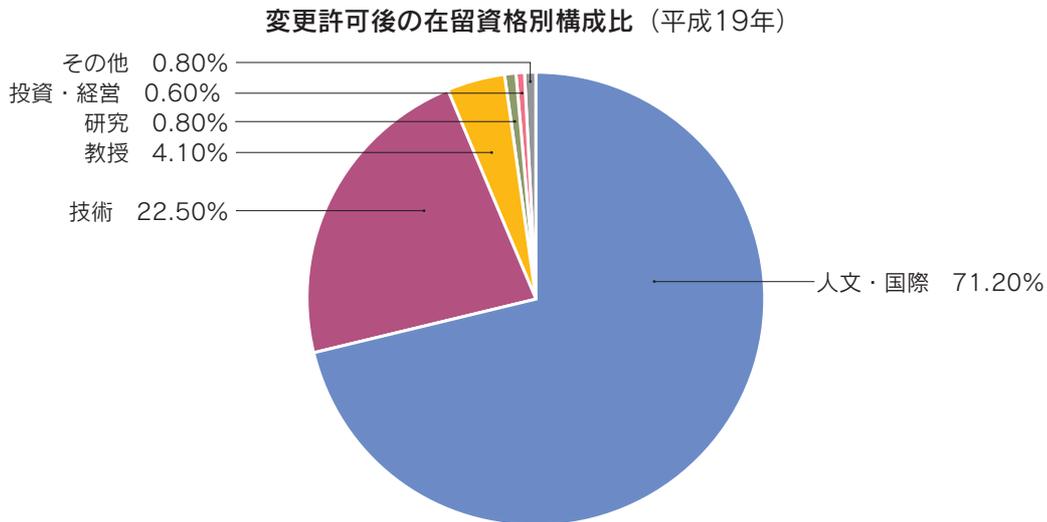
① 中 国	7,539人（前年比1,539人、25.7%増）
② 韓 国	1,109人（前年比 165人、17.5%増）
③ 中 国（台 湾）	282人（前年比 82人、41.0%増）
④ バングラデシュ	138人（前年比 19人、16.0%増）
⑤ ベ ト ナ ム	131人（前年比 39人、42.4%増）

となっている。

なお、在留資格別等内訳は次のとおりである。

(1) 在留資格別内訳

「人文知識・国際業務」が7,304人（71.2%）、「技術」が2,314人（22.5%）となっており、これら2つの在留資格で全体の93.7%を占めている。

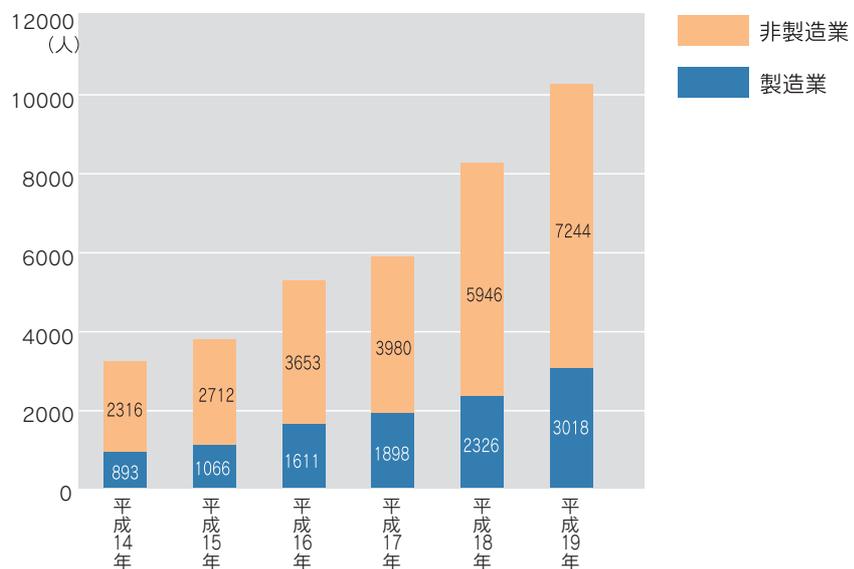


(2) 就職先の業種

非製造業が7,244人（70.6%）、製造業が3,018人（29.4%）となっており、前年に比べ非製造業が約1.2倍、製造業が約1.3倍増加している。

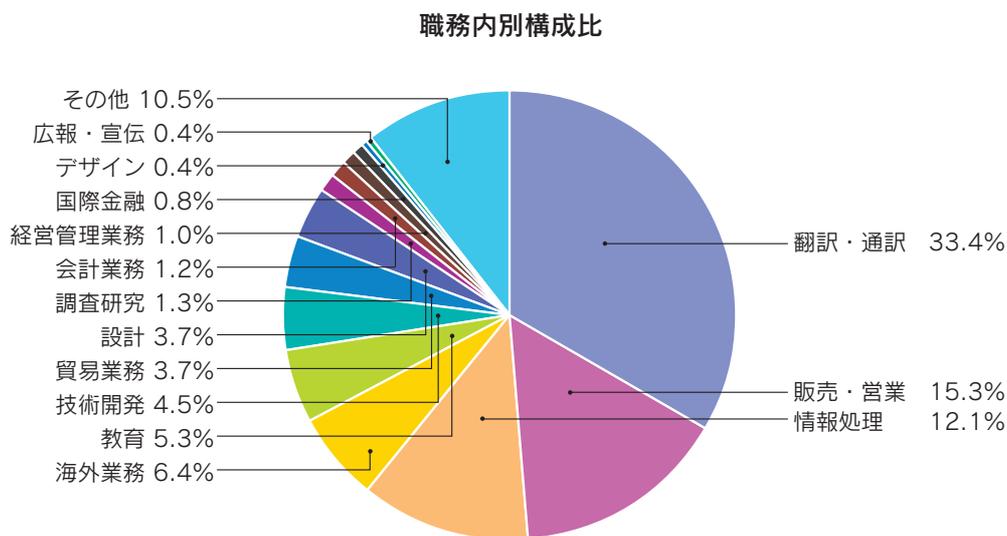
なお、非製造業では、商業・貿易分野、コンピュータ関連分野及び教育分野がそれぞれ2,145人（20.9%）、1,510人（14.7%）、655人（6.4%）と上位を占めており、また、製造業では、機械分野及び電機分野がそれぞれ550人（5.4%）、467人（4.6%）と上位を占めている。

業種別許可人員の推移



(3) 就職先の職務内容

翻訳・通訳が3,431人(33.4%)で、前年に比べ720人(26.6%)増加した。次いで、販売・営業(1,574人)、情報処理(1,242人)、海外業務(656人)の順となっており、特に販売・営業については前年の約1.8倍に増加し、また、情報処理についても前年の約1.4倍に増加して、前年に引き続き著しい増加傾向を示している。なお、これらの4種の職務内容に従事する者は6,903人で全体の67%を占めている。



(4) 就職先企業等の所在地

東京都に所在する企業等に就職した者が5,055人(49.3%)と最も多く、次いで大阪府1,033人(10.1%)、愛知県786人(7.7%)、以下神奈川県、福岡県、埼玉県の順となっている。

なお、群馬県に所在する企業等に就職した者は68人(0.66%)。

平成20年度 アジア人財資金構想 高度専門留學生育成事業

 **群馬大学留學生就職報告会2008**

平成21年3月

発行者：経済産業省関東経済産業局

編集者：国立大学法人 群馬大学

国際教育・研究センター

〒371-8510 前橋市荒牧町4-2

TEL 027-220-7627

FAX 027-220-7630

E-mail g-exchange@jimu.gunma-u.ac.jp

<http://ryugaku-ce.aramacki.gunma-u.ac.jp/>

Center for International Education and Research, GUNMA UNIVERSITY

4-2 Aramaki-machi, Maebashi City, Gunma, 371-8510 Japan

TEL +81-27-220-7627

FAX +81-27-220-7630

印刷・製本：上武印刷株式会社